資料番号	2

求められる高等学校について

1　求められる高等学校の在り方についての主な意見

○　今後の高等学校教育においては，本県を内外から支える人材となる意欲と能力を持った生徒の力を最大限に伸ばすことのできる体制を整備する必要がある。

○　まずバランスの取れた知徳体，環境の変化に対応できる人間力を身に付けさせることを，本県における全ての高等学校で取り組むことが重要である。

○　高校段階から将来の明確な目標を持ち，その実現に向け取り組む意欲のある生徒の能力を伸ばせる環境，特色ある教育づくりを一層進めていく必要がある。

○　特色ある教育づくりを推進する上で，次のことに留意する必要がある。

・都市部や中山間地域（または島嶼部）等，地域による異なる状況を踏まえ，それぞれに合ったやり方で特色ある教育を行う。

・高校３年間を通じて学ぶ中で，将来の夢や目標を持つ生徒に対して，個々の状況に応じて特色ある教育を受けられるよう，柔軟に対応できる体制の整備を行う。

・進学や就職等の進路面での特色だけでなく，豊かな人間性を育むために，部活動や学校行事などにおける特色づくりも進める。

・特色ある教育づくりを進める上で，必要となる人的・物的資源の有効活用として，教員以外の人材の活用や，学校間の連携など学校の枠組みを越えた仕組みづくりを研究する。

・中学生が高校の特色や魅力について理解する取組を行う。

【委員から出された主な意見】

◇　その意欲と能力を持った生徒は，それを最大限にその力を伸ばしてやれるような体制も学校の中につくっていく必要があるのではないか。（第２回）

◇　１つは，「生徒のバランスの取れた知徳体」という言葉があるけれども，知の中であっても，いろんなバランスがあるだろう。それを見つけていく。もう一つは，いろんな環境の変化が非常に激しくなる，そういう環境の変化に対してきちんと対応できる力をつける。（第２回）

◇　基礎となる力の（Ｂ）のほう，社会で活躍できるために身につけるべき力というのは，高等学校側で，ある程度特別な場面であるとか発表する場，機会を用意するとか，そういった工夫が要るのではないか。そういう意味では，各学校が，地域の実態に合わせて特色づくり，県でも既に各高等学校の特色ある教育づくりを随時進めているけれども，それをより一層進めていく必要がある。（第３回）

◇　小規模校，中山間地域の高校にはそのやり方がある，都市部にもそのやり方があるという考え方で進めていただければいい。（第４回）

◇　文化・スポーツにしても，あるいは理数系の子どもたちにしても，高等学校の３年間で，その子の資質を見つけるチャンスがあればいい。

　都市部から地域まで，たくさんの高等学校が，そこで教えて鍛えているうちに，例えば，自分が理数系として伸びるという資質に目覚めた者がそれぞれ進めるような，そういうチャンスの場を持てれば，高等学校としての用をなす。（第３回）

◇　それぞれの学校が，何か１つ優れた特色を持つということも大事。（第４回）

◇　特色のある，さまざまな力をつける学校というのに加え，人間を育てる，社会へ出る一歩前の大切な橋渡しをする教育の機関であってほしい。（第４回）

◇　県内の高校間でも連携の仕方，幾つかの複数高校などと取組をしているはずだが，そういう面で，サークルにしても，クラブにしても，理数にしても，県内の有効な資産，人材を生かせるようなことができないか。（第３回）

◇　ＯＢでもすばらしい人がいたら，だれでも活用すればいい。学校の先生だけがやる必要ない。（第１回）

◇　普通科もいいし，特別なスペシャリストになれるような，特化した高校にも魅力を感じるが，その宣伝というか，広報が，まだまだ不十分ではないか。（第４回）

２　求められる高等学校となるための方向性

（１）次のステージで活躍できるように基礎基本（コア）を身に付けることは全ての高校に共通する使命。

**　高校入学時に自分の進路を見定めることができる子どもはそう多くはない，進路を見定めることができない子どもたちのためにコアの育成を重視した高校は必要。**

（２）将来の明確な目標を持ち，その実現に向け取り組む意欲のある生徒の能力を伸ばすために，特色ある高校は社会のニーズとして必要。

（３）また，コアの育成を重視しつつ，コース制などを設けて，特色を打ち出す高校もあってもよい。

【委員から出された主な意見】

◇　基礎基本をきちんとつけて，次のステージのときにきちんと活躍できる人間を育てていくことは，大きな使命。（第２回）

◇　そうじゃない高校の子どもたちというのが，そういう魅力ある，コアにアクセスできる環境。（第３回）

◇　国際とか，中学校 15 歳で自分の進路をある程度見定めることは，実際にはかなり難しいだろう。しかし，そういう中で，特徴ある学校が，社会のニーズとしてやはり必要だろう。（第４回）

◇　コアの部分はみんな共通してしっかりやって，コース制等で特徴を打ち出すような学校も当然あっていい。（第４回）

（1）基礎基本（コア）の重視

○　コアの育成を重視する高校について，以下の例示がされた。
- 全ての高校で，大学等へ進学したり，社会に出て，より高い専門性を身に付けるための，基礎としてバランスのとれた教育を行う必要がある。
- 特定の機能に特化した高校だけではなく，高校３年間の生活の中で，子どもが将来の夢や目標を見つけることのできる高校も必要

【委員から出された主な意見】

◇　大量の退職が出たり，少子化，あるいは外国の方が増えている中で，これから社会に出る子どもは，今までにない力，より高い専門性を身に付けなければならない。そのための大きな基礎になるのは，普通科の教育，バランスのとれた教育だと思っている。（第２回）

◇　文化・スポーツにしても，あるいは理数系の子どもたちにしても，高等学校の３年間で，その子の資質を見つけるチャンスがあればいい。（第３回）

（2）特色のある高校（特定の機能に特化した高校）

○　特色のある高校（特定の機能に特化した高校）について，以下の例示がされた。
- 農業を担う人材を育成する高校
- 全日制に馴染めない生徒に対応した高校
- ものづくりのスペシャリストを育成する高校
- グローバル社会で活躍できる人材を育成する高校
- 理数系人材を育成する高校
- 芸術･スポーツなどの特別な能力を伸ばす高校
- 水産業を担う人材を育成する高校

【委員から出された主な意見】

◇　農業をやるということは，ものを育てるだけじゃなく，気象学，地質学，生物，そんなものを全部マスターしないといけない。仕事では土木業も建設業も，また大工さんも，水道も，電気工事も，全部やらなければいけない。そういういろんなことができる人間でないと伸びてこない。学校ではそういうのを育ててほしい。（第１回）

◇　芦品まなび学園のような学校がどんどん増えていってくれればいい。（第１回）

◇　一つの鉄の世界であったり，技術の世界であったりというものを，描ける高校生を育成したい。（第２回）

◇　英語科の教員ではなく，他教科の教員も，英語で授業ができるような力量は必要ではないのか。拠点校形成が要る。つまり選択と集中，すべての高等学校を同じレベルで同じように力点を置いてやることは，恐らく不可能。グローバル人材を育成する高等学校を設置するなら，拠点校形成すべき。特徴を持つような拠点校形成により，グローバル化に積極的に対応すべき。（第２回）

◇　ある意味ちょっと特殊というか，非常に専門性の高い，附属がやっているようなことを，県立の高等学校で具現化できる学校を，１校から２校，３校と広げていくような方向性は，理数教育においても必要。（第３回）

◇　芸術・スポーツなどの特別な能力の育成，学校の特色化によって，そういう能力の育成を特化して考える必要性も一方ではある。（第３回）

◇　県内の，国公私立を合わせてできるようなというか，・・・指定校制で，ここの高校はこういう特徴というのがあってもいい。（第３回）

◇　水産科高校の設置（第４回）

（３）コアを重視しつつ，コース制等により特定の機能を強化する高校

○　コアを重視しつつ，コース制等により特定の機能を強化する高校について，以下の例示がされた。
- **普通科において，基礎的な教養をしっかり学びつつ，芸術など特定の分野を特化して学ぶことができる高校**
- **普通科と他の学科が併設され，授業等において学科間で連携することにより，多様な学びを提供できる高校**

【委員から出された主な意見】

◇　（今の高校の部活でやっているような）吹奏楽は，そこで一度燃え尽きているところがある。高校教育の中では，芸術を極めることの大切さを伝えるような，もう一つ別な芸術観を高校生に伝えないといけない。その際（芸術をやるとき）にも，決して基礎的な教養は外さないでいただきたい。芸術に特化するいろんな育て方があったとしても，基礎基本はしっかりと身につけて，プラスアルファで芸術を学ぶことによって，コミュニケーション能力や，人間関係等，社会人基礎能力が身に付く。普通科でもいろんな選択肢の可能性がある（例えば，普通科の中でも芸術を特化して学ぶことができる）のは，非常にいいこと。（第３回）

◇　普通科であっても，いろんな学科が併設している，例えば普通科と体育科と衛生看護科とか，がある。その中で，部活とか学校行事等は一緒にやっていて，さまざまな，例えば看護師になることを目標にしている人たち等と出会えば，普通科の子たちも刺激を受けたりとかもあって，・・・非常にいい影響があると思っている。ただ，まだまだ，授業内容とかで何か連携しているというところまではいっていないような気もしていて，そういう学校内でいろんな科を持っているところでは，連携し合って，相乗効果を与えるようなことができないか。（第４回）

3　県内の各高校間の連携による有効な資産，人材活用

○　県内の高等学校教育において，特色ある教育づくりを進める上で，必要となる人的・物的資源の有効活用に資するために，学校の枠組みを越えた仕組みづくりを研究することが提案された。

（例）

・教員以外の人材の活用
・学校間の連携
・ＩＣＴの活用

【委員から出された主な意見】

◇　県内高校でも連携の仕方，幾つかの複数高校などと取組をしているはずだが，そういう面で，サークルにしても，クラブにしても，理数にしても，県内の有効な資産，人材を生かせるようなことができないか。（第３回）

◇　例えばＩＣＴをもっと利用して，姉妹校とＷＥＢの講義をやるとかという話もあったが，むしろ県内の学校同士で，子どもたちにタブレットを持たせ，他校の教員の講義を聞くとかを，先々の話になるのかもしれないが，小さい山間部の学校でやると，いい授業が受けられる。そうやって県内の先生方のいろんな力をもっと生かせるようなことを考えられるといいのではないか。（第４回）

◇　公私を含めると，難しいところもあるのかもしれないが，少なくとも公立学校の間での連携をもっと考えるべきではないか。

・　生徒の流動性という話もあった。入試制度や，入学定員の問題があって難しいところがあろうとは思うが，子どもが他の高校の特色のある取組もやってみたいなと，本当に真剣に思ったときに移れるような仕組み
・　緩やかな学校間連携を組んで，ある高校ではこれができます，またある高校ではこんなことができますとか，教員も互いにやりとりしながら，いい授業だったり，いい指導だったりを共有できるような仕組み

そんなことを，その地区，ブロックの中で考えていく必要性があるのではないか。（第４回）